

学校経営ビジョン

“「つながり」を学ぶ そして、学ぶことを「喜び」に”の実現を目指す学校

◎ つながりを学び、生かすことを通して、将来にわたり、健康な心と体を保持増進しようとする意識と態度を育む。

- 1 体力向上プランを活かした体育科の授業改善と日常運動（ジョギング、縄跳び）の推進及び健康・衛生保持のための生活習慣の定着と各種検査後の治療率向上→自己管理能力の育成へ

- 集団行動の基本的様式(姿勢・礼・方向転換等)の定着。個人行動への波及。→儀式的・体育的行事等で、日頃の成果を発揮させる。
- 体力テスト結果の弱点補強を体育科授業や日常運動に取り入れる工夫を行う。前年度の結果を上回るための「個への指導」を工夫する。
- 生活習慣の定着のために、早寝と朝うんち、メディアコントロールに絞って指導・家庭への啓発を行う。
- 養護教諭と連携した保健学習の実践。→がん教育(小児生活習慣病の予防)、性教育の充実を図る。

- 2 食に関する指導（「弁当の日」を含む）の充実→地産地消、地元の食文化の継承へ

- 家庭や栄養教諭と連携した食育の実践。→食の大切さ及び地産地消、地元の食文化の継承の視点を取り入れた実践に。

- 3 自他の安全を守る行動についての理解促進→危険予知・回避能力の育成へ

- 児童とともに安全点検(担任の担当場所及び遊具)の実施。
- (形骸化を防ぐために)児童に考え、判断させる避難訓練の実施。
- 「～したらダメ、危ない」と教えることで終わらない、中・高学年向けの発展的な指導の工夫。

◎ つながりを学び、生かすことを通して、地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりを一体的に推進する。

- 1 地域教材・人材を活用した教育活動の充実、豊かな体験活動・交流活動の推進及び伝統文化の継承活動→ふるさとのよさに気づき、ふるさとを愛する心の醸成（心の拠り所づくり）

- 村教委と連携した体制整備。→地域コーディネーター(地域学校協働本部)や学校運営協議会の設置と活用
- 「総合的な学習の時間」の年間指導計画の見直し→ふるさとのよき、ふるさとへの愛情を自分の言葉で語れる児童の育成を目指した段階的な指導へ

- 2 村づくりの方針に則った地域との協働活動の展開→持続可能な社会の構築に向けた学校の役割を果たす

- 村づくりの方針に合致する学校の役割は「人づくり」である。村の将来を託す子ども達をどんな「人」に育てていくのか、学校だけではなく、教育の当事者(保護者、地域住民)や関係者(企業、各種団体等)で熟議し、協働していくことが求められる。0からスタートするのではなく、既存の組織・役割を活用したり、既存の取組・習慣を価値付けしたりして、稚葉のよさが生きる協働活動を展開(構築)していきたい。